

令和 8 年 3 月 27 日
水管理・国土保全局河川環境課

猛暑で変わる水辺利用 「夏の川」から「春・秋の川」へ ～河川水辺の国勢調査 34 年の分析から～

「河川水辺の国勢調査」（河川空間利用実態調査・ダム湖利用実態調査）の最新結果（令和 6 年度）を、これまでのデータとあわせて分析したところ、水辺利用の季節に変化が生じていることが明らかになりました。

河川では、休日の利用者の季節割合が春 31%、秋 29%、夏 23%となり、春・秋が夏を上回りました。近年の猛暑の影響が考えられます。

一方で、河川やダム湖は散策やスポーツなどの日常的な活動の場として安定的に利用されており、身近なオープンスペースとして重要な役割を担っていることも確認されました。

- 国土交通省では、河川空間の整備と保全を適切に推進するため、平成 3 年度から「河川水辺の国勢調査」（河川空間利用実態調査・ダム湖利用実態調査）を実施しています。本調査は、全国一級水系の国管理区間の河川、及び国・水資源機構管理のダムを対象としており、現在は 5 年ごとに調査を実施しています。
- これまでの調査結果から水辺利用の変化傾向を分析し、特徴をとりまとめました。

人々の暮らしを支え続ける水辺

河川・ダム湖の利用者数は、前回調査（令和元年度）と同水準で推移しています。

散策やスポーツといった日常利用が定着しており、水辺が地域住民の生活圏として欠かせない存在となっています。



白川（熊本県）

「夏の川」から「春・秋の川」へ

夏の利用が減少する一方で、春・秋の利用が増加する、**利用時期の分散化**が見られました。

猛暑の影響を避けつつ、気候の穏やかな時期に水辺を楽しむという傾向がうかがえます。



石狩川（北海道）

「かわまちづくり」や復旧による賑わいの創出

かわまちづくり支援制度を活用した賑わい箇所の創出や、自然災害による被災からの復興・整備を行った水辺において**利用者数の増加・回復**が見られました。

ダム湖においては、大都市や主要観光地からのアクセスが良いダム等で**利用者が増加**しています。



かわまちづくり
五ヶ瀬川水系大瀬川（高崎県）



震災復興・かわまちづくり
名取川（宮城県）



紅葉祭り
豊平峡ダム（北海道）

- 分析結果の詳細については別紙をご参照ください。
- 今後も経年的な分析を行い、魅力ある河川空間の整備と保全に活かしてまいります。

* 令和 6 年度の調査結果の概要については、河川環境データベースをご覧ください。

【河川版】<https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/mizukokuweb/kuukan/index.htm>

【ダム湖版】<https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/mizukokudam/KekkaPDF.htm>

<問合せ先>

水管理・国土保全局 河川環境課 鶴田、安達

TEL : 03-5253-8111（内線 35434、35444）、03-5253-8447（直通）



全国の一級河川及びダムでは、「河川水辺の国勢調査」を通じて、河川・ダムにおける人々の活動を記録し続けています。最新の調査結果を、これまでの調査データとあわせて分析したところ、**河川やダム湖が安定的に利用**されていることや、**気候変動等の影響を受け、水辺との関わり方が変化**しているなど、さまざまな変化が明らかになりました。

人々の暮らしを支え続ける水辺

河川・ダム湖の利用者数は、前回調査(令和元年度)と同水準で推移しています。

散策やスポーツといった日常利用が定着しており、水辺が地域住民の生活圏として欠かせない存在となっています。



白川（熊本県）

「夏の川」から「春・秋の川」へ

夏の利用が減少する一方で、春・秋の利用が増加する、**利用時期の分散化**が見られました。

猛暑の影響を避けつつ、気候の穏やかな時期に水辺を楽しむという傾向がうかがえます。



石狩川（北海道）

「かわまちづくり」や復旧による賑わいの創出

かわまちづくり支援制度を活用した賑わい箇所の創出や、自然災害による被災からの復興・整備を行った水辺において**利用者数の増加・回復**が見られました。

ダム湖においては、大都市や主要観光地からのアクセスが良いダム等で**利用者が増加**しています。



かわまちづくり
五ヶ瀬川水系大瀬川（宮崎県）



震災復興・かわまちづくり
名取川（宮城県）



紅葉狩り
豊平峡ダム（北海道）

河川空間は、生物多様性を支える「自然の宝庫」であると同時に、人々の心身の健康や地域の活力を育む公共空間です
今後も調査を通じて、魅力ある河川空間の整備や、豊かな水辺文化の継承に活かしていきます

- 国土交通省では、河川空間の整備と保全を適切に推進するため、河川及びダムにおける人々の利用実態を把握することを目的として、平成3年(1991年)度より「河川水辺の国勢調査」（河川空間利用実態調査・ダム湖利用実態調査）を実施しています
- 本調査は、全国一級水系の国管理区間の河川、及び国・水資源機構管理ダムを対象としており、これまでの34年間で河川は11回、ダム湖は10回の調査を実施し、河川及びダム湖周辺における利用者数や利用実態等の基礎データを体系的に取得してきました

夏季の利用割合が減少する一方で、**春季や秋季の利用シェアが拡大**している傾向が鮮明になっています。

夏の水辺は、水遊びやカヌー等の水上スポーツ等の利用者が多く見られますが、平成15年以降、利用者数が減少しています。夏の高温との関係が考えられます。

河川の休日調査では、春の利用者が平成26年以降増加、秋は令和6年度に増加し、**夏の利用者を上回っています**。

令和6年度の利用者割合は、**春:31%、秋:29%、夏:23%**でした。

ダム湖でも同様の傾向が見られます。

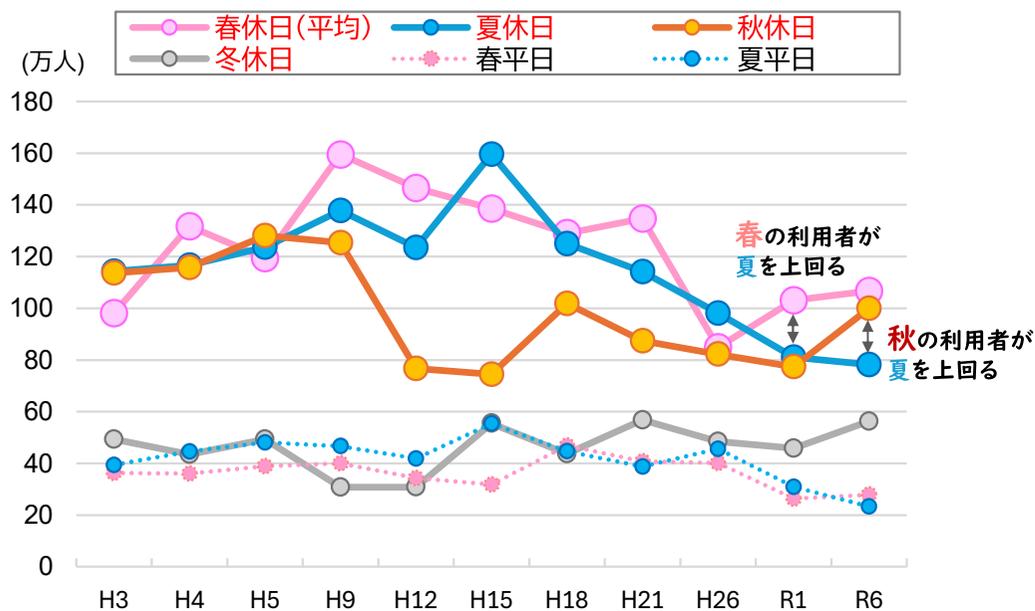
令和6年度の利用者割合は、**春:38%、秋:32%、夏:21%**でした。



石狩川（北海道 R6.4.29）

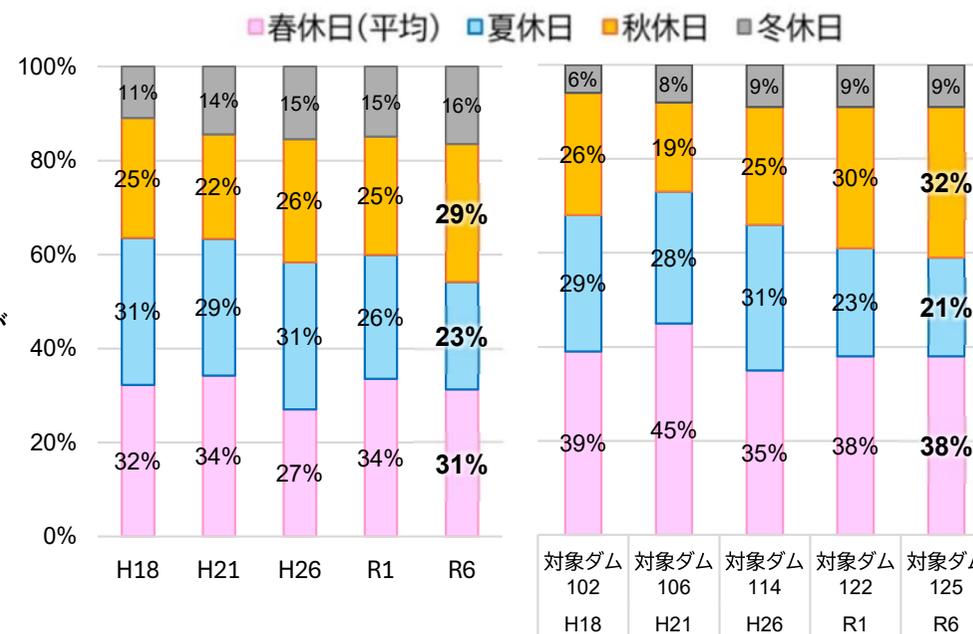


白川ダム(山形県・最上川 R6.4.29)



※春季は休日調査を2回行っており、2日間の平均値を用いた。
 ※秋季及び冬季は平日調査を行っていない。

調査日における利用者数の経年変化(河川)



休日調査日における利用者割合の経年変化 (左:河川・右:ダム湖)

河川とダム湖は、**多くの人々に継続的に利用**されています。

令和6年度調査における利用者数(推計値)は、**約1億5,964万人**(河川空間:約1億4,853万人、ダム湖:約1,111万人)でした。

年間利用者数※の経年推移は、平成18年度以降、緩やかな減少傾向となっています。※春～冬の7日間の利用者調査結果から推計した値

減少の要因として、**気候変動**(夏の高温や大雨)、**自然災害**による施設被災や、**社会状況の変化**(人口減少、コロナ禍による生活習慣変化)等が考えられます。

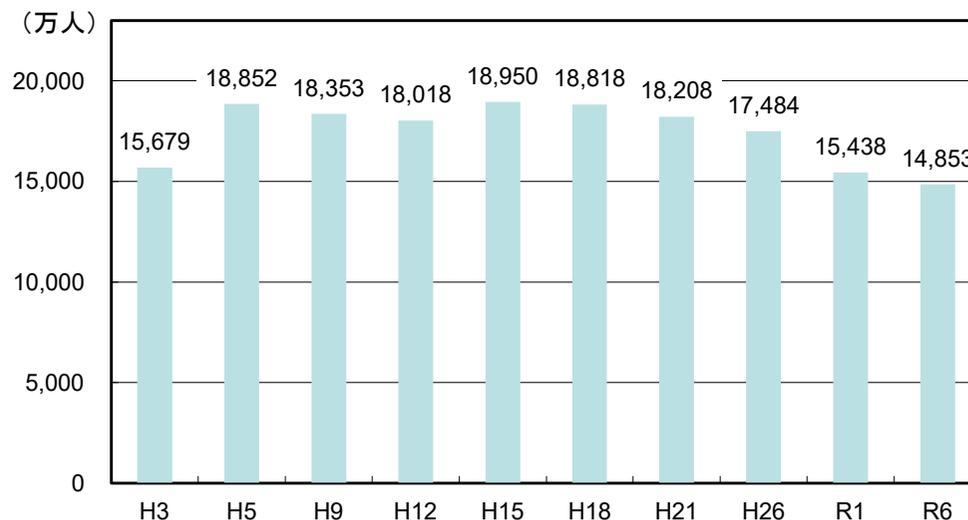
しかしながら、30年前と比較しても利用規模は維持されており、身近なオープンスペースとして、**人々の健康や憩いを支える重要なインフラ機能**を果たしています。



五ヶ瀬川 (宮崎県 R6.7.28)

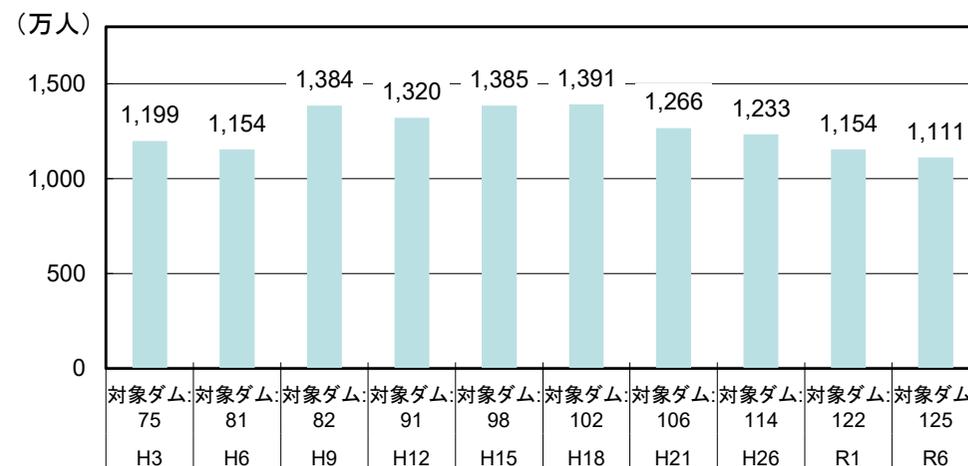


一庫ダム (兵庫県・淀川水系、R6.11.17)



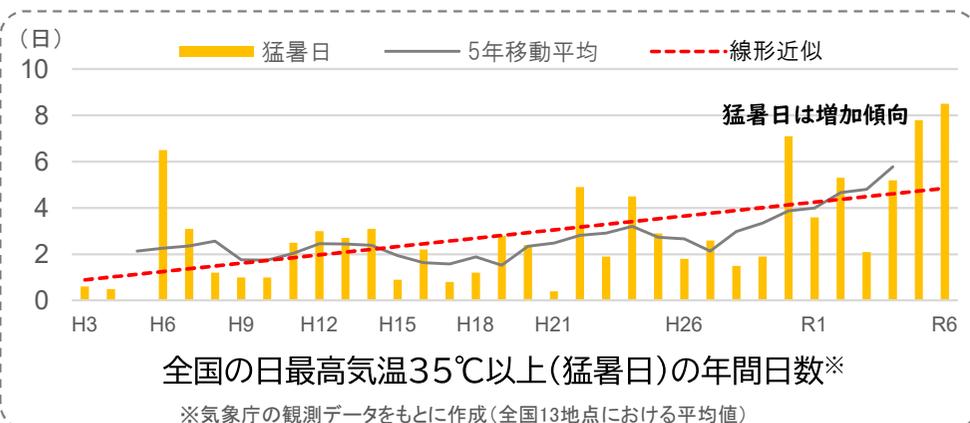
年間利用者数※の経年変化(河川)

※春～冬の7日間の利用者調査結果から推計した値



年間利用者数※の経年変化(ダム湖)

※春～冬の7日間の利用者調査結果から推計した値
平成12年度からは、イベント時の利用者調査結果も計上している



散策やスポーツといった「日常利用」が定着しています。

河川・ダム湖では、散策、スポーツ、釣りなど様々な活動(利用形態)が見られます。

河川では、散策等が長期的に半数以上を占め、水辺空間が**地域住民の日常生活における憩いの場**となっていることが確認されました。

一方で、釣りや水遊びなど水と触れ合う活動は減少傾向にあります。

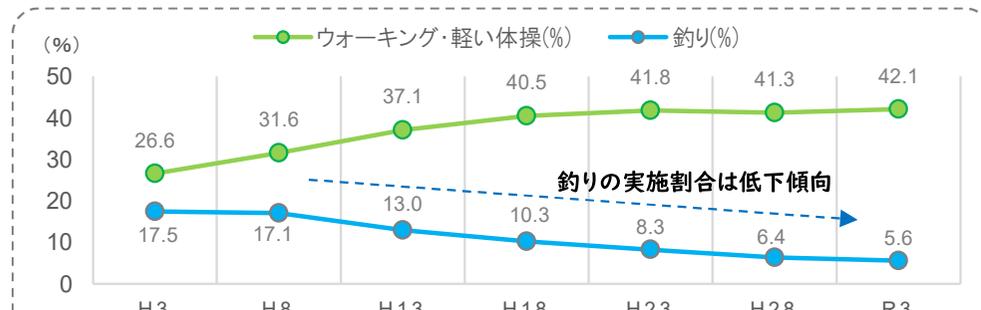
ダム湖では、湖畔の散策や公園等の利用が多く、河川と同様に**憩いの場**として定着しています。



尻別川 (北海道 R6.4.29)

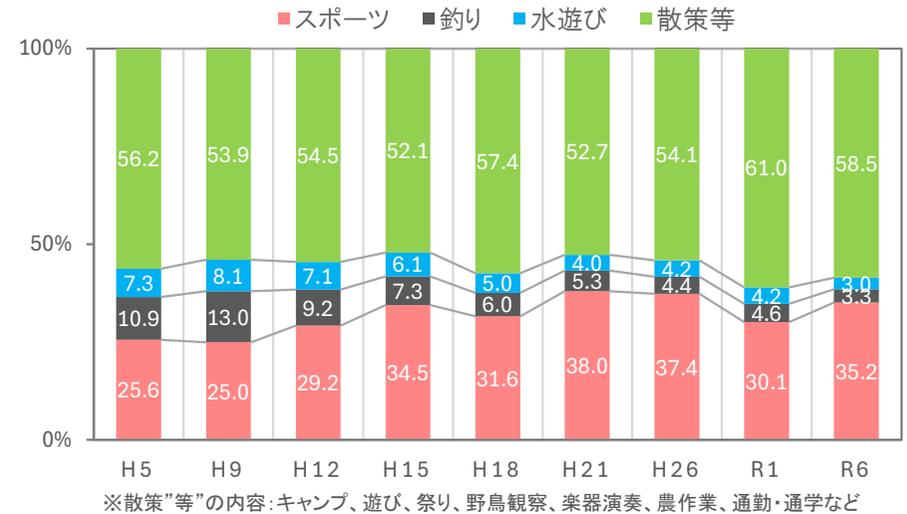


早明浦ダム(高知県・吉野川 R6.5.5)



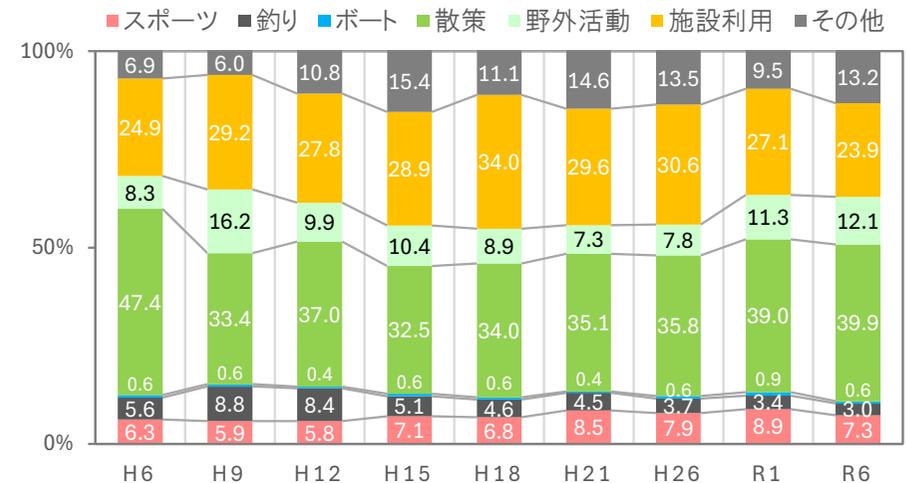
自由時間に釣り/ウォーキング・軽い体操を行った割合※

※総務省統計局「社会生活基本調査結果」データをもとに作成。「スポーツ」カテゴリから上記2種を抽出。
 行動者率＝過去1年間に該当する種類の活動を行った人(10歳以上)の数÷10歳以上人口×100(%)



※散策”等”の内容:キャンプ、遊び、祭り、野鳥観察、楽器演奏、農作業、通勤・通学など

利用形態割合の経年変化(河川)

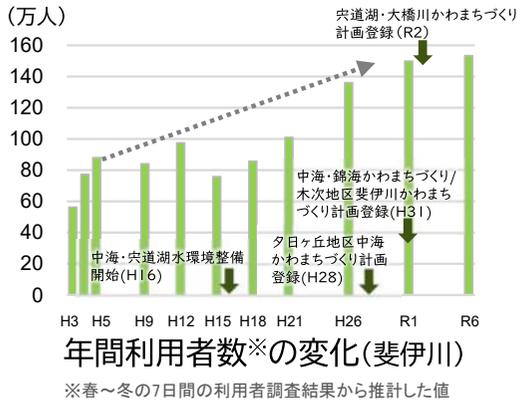


※野外活動:キャンプやバーベキュー等の屋外でのアウトドア活動
 施設利用:レストランや売店、資料館等の屋内施設や娯楽施設の利用
 その他:他の区分に当てはまらないイベントや学習活動、ダムカード収集など

利用形態割合の経年変化(ダム湖)

利用者数が増加している河川では、水辺整備や地域活動の効果が見られます。

斐伊川(島根県)は、宍道湖、県都松江市を流れる大橋川、中海を通過して日本海に注いでいます。かわまちづくりにより水辺の親水広場や親水護岸が整備され、また宍道湖・中海の水質改善も取り組まれており、散策やレクリエーション、バードウォッチングなど様々な利用が見られます。



斐伊川水系宍道湖(島根県 R6.7.28)
護岸が整備され景観がよく散策等の利用が多い



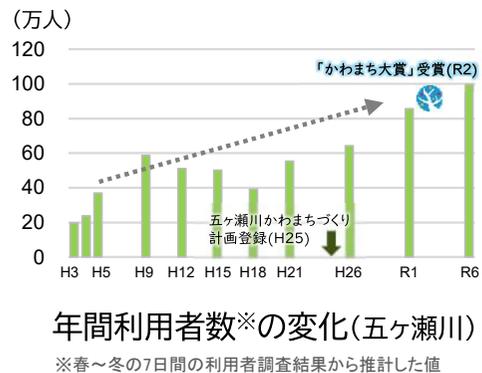
斐伊川水系宍道湖(島根県 R6.11.10)
景観がよく散策等の利用が多い

	河川名	所在(地方ブロック)	相関係数
1	斐伊川	中国	0.91
1	五ヶ瀬川	九州	0.91
3	高瀬川	東北	0.88
4	淀川	近畿	0.87
5	緑川	九州	0.84
6	木曾川	中部	0.82
6	本明川	九州	0.82
8	十勝川	北海道	0.78
9	子吉川	東北	0.76
9	大野川	九州	0.76

年間利用者数が増加傾向の河川

※H3(1991)からR6(2024)を対象に、年(西暦)と利用者数の相関係数(CORREL関数)を算出し、上位10河川を整理。

五ヶ瀬川(宮崎県)では、延岡市街地と隣接する五ヶ瀬川や大瀬川の中下流部において、かわまちづくりにより散策路やかわまち交流広場などが整備され、利用が促進されていると考えられます。



五ヶ瀬川水系大瀬川(宮崎県 R6.7.28)
かわまち交流広場(H27完成)の水際には水遊びの利用が多い



五ヶ瀬川(宮崎県 R7.1.13)
和光彩スライランタン・和傘イベント(かわまち交流広場)

震災復興とかわまちづくり

東日本大震災で甚大な被害を受けた**名取川**(宮城県) 閑上地区。復興事業とかわまちづくりの連携により水辺利用者が着実に増加し、“復興の象徴”から、観光と日常の賑わい空間へと進化しています。



名取川(宮城県 R6.7.29)
商業施設「かわまちてらす閑上」(R1開業)の利用や周辺の散策。夏季は水遊びも。

ダム湖と周辺環境を活かした様々なイベントが催されています。

ダムは施設そのものの魅力だけではなく、四季の絶景やアクティビティを楽しめる資源としてのポテンシャルを発揮しています。

ダム湖や周辺施設、自然環境をはじめ、各地の土地の特徴を活かした様々なイベントが催されています。

番外編 ダムと銅像で作中の場面を再現

進撃の巨人銅像
ダム下流広場に設置された進撃の巨人銅像を目当てに遠方からも多くの利用者が来訪

大山ダム(大分県・筑後川水系、R6.5.5)

水陸両用バスがダム湖を走る

湯西川ダム(栃木県・利根川水系、4~11月開催)

湯西川ダックツアー
水陸両用バスでダム湖遊覧とダム施設の見学を行う人気のクルーズツアー

普段入ることができないダムの内部へ

小渋ダム(長野県・天竜川水系、R6.7.27)

小渋ダム開放DAY!
普段は立ち入れない小渋ダムの監査廊やキャットウォーク、小渋第3発電所を見学

迫力満点のダム放流を間近で見る

岩屋ダム(岐阜県・木曾川水系、R6.7.28)

岩屋ダムロックフィルダムフェス点検放流
洪水吐ゲートの真上や真横から放流を見学できる。特産品の販売、金山巨石群のガイドツアーも実施。

親水広場でアユをつかまえアユを味わう

川上ダム(三重県・淀川水系、R6.8.3)

アユのつかみ取り大会
小学生以下の子どもたちを対象としたイベント。捕れたアユはその場で焼いて味わえる。

湖底に沈んだかつての街を歩く

夕張シューパロダム(北海道・石狩川水系、R6.9.28)

沈んだ街歩きイベント
水位低下時期に、湖底に沈んだ旧市街地を、当時の地図を見ながら散策し、かつての街並みに思いを馳せる

ダムの上がマラソンコースに

一庫ダム(兵庫県・淀川水系、R6.11.17)

川西一庫ダム周遊マラソン
ダム堤体をスタート/ゴールとしてダム湖周遊道路を走る晩秋のマラソン大会

船に乗って発電所遺構や滝を遊覧

鶴田ダム(鹿児島県・川内川水系、R6.11.24)

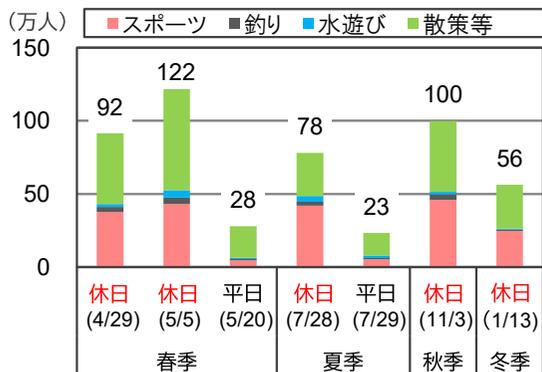
秋の大鶴湖まつり 大鶴湖遊覧船
ダム湖を船で巡り、水没した曾木発電所遺構や曾木の滝を水上から遊覧。秋の大鶴湖まつり期間を含む秋限定イベント。

凍ったダム湖で冬遊び

大雪ダム(北海道・石狩川水系、R7.1.19)

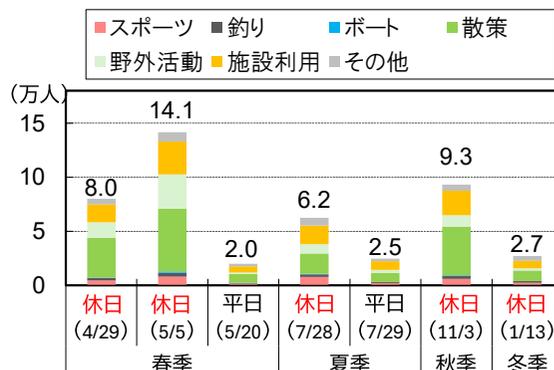
大雪ダムdeアイスカラーセル&冬遊び
氷結したダム湖を円形に切り出した水のメリーゴーランドや秘境クルーズ、キャニオンスライダーなど冬を満喫

令和6年度の各調査日の利用者数は、河川・ダム湖ともに**春の休日(5/5)が最も多く**、次に**秋の休日(11/3)**が多い結果でした。河川では**散策・スポーツ**、ダム湖では**散策・公園**などの利用が多く、日常の憩いの場所として欠かせない存在となっています。



白川 (熊本県 R6.4.29)

熊本市街部や渡鹿堰周辺はかわまちづくり等により水辺空間が整備され、四季を通じて散策や通勤・通学等の利用が多い



豊平峡ダム (北海道・石狩川水系 R6.10.14)

札幌市街地からアクセスが良く、国立公園内の自然豊かな観光スポットである。紅葉狩りなどで、秋の利用割合が高い。

各調査日の利用者数(河川)

※天候等の事情により、調査日をずらした河川がある

各調査日の利用者数(ダム湖)

※天候等の事情により、調査日をずらしたダム湖がある

年間利用者数ランキング(河川)

- 淀川** 2,458万人
関東・近畿の大都市圏の河川で、散策やスポーツの利用が多く見られます。
- 利根川** 1,782万人
これら3河川は、調査開始以来、継続して4位以内にランクインする常連です。
- 多摩川** 1,579万人



淀川水系宇治川 (京都府 R6.11.3)

年間利用者数ランキング(ダム湖)

- 宮ヶ瀬ダム** 160.5万人
首都圏から日帰り圏内 H15年度の調査開始以来1位をキープ
- ハッ場ダム** 70.4万人
R6年度から調査開始 商業・観光施設が充実 近くに有名観光地
- 御所ダム** 52.8万人
盛岡市近郊でレジャー施設・温泉・公園が整備



宮ヶ瀬ダム (神奈川県・相模川水系 R6)

1人あたりの年間利用回数※ランキング(河川) ※年間利用者数を沿州市町村人口で除した値

- 五ヶ瀬川** 8.6回
かわまちづくり整備が進み 河川利用が活発
- 尻別川** 7.2回
アユ等が生息しており 釣り人に人気
- 渡川(四方十川)** 7.2回
日常的な散策等に加え 観光客の姿も



五ヶ瀬川 (宮崎県 R6.7.28)

年間イベント種類数ランキング(ダム湖)

- 釜房ダム** 33種類
ダム湖畔の公園で四季を通じて様々なイベントを開催 音楽イベントや春の花フェスタ、オータムフェスタが人気
- 嘉瀬川ダム** 25種類
カヌーや川遊び等の水辺を楽しむイベントが多い ダム湖を利用した水上スキー大会も開催される
- 目吉ダム、耶馬溪ダム、早明浦ダム** 14種類
音楽、キャンプ、スポーツなどの屋外イベント多数

春は全国的に最も多くの人々が水辺を訪れる季節です。

散策、水上スポーツ、釣り、キャンプ、潮干狩り等が見られました。北海道や東北地方では、調査日が桜の季節と重なり、お花見の様子が捉えられています。



サイクリング (苫田ダム R6.5.5)



キャンプ (久慈川 R6.5.3)



お花見 (岩木川 R6.4.29)



散策 (羽地ダム R6.5.4)



水上スポーツ (加古川 R6.5.5)



釣り (梯川 R6.5.5)



散策 (五十里ダム R6.5.5)



水上スポーツ (高梁川 R6.5.20)



潮干狩り (豊川 R6.5.5)



石狩川(北海道 R6.4.29)
散策 (お花見)



白川ダム(山形県・最上川 R6.4.29)
水上スポーツ (カヌー)



烏川・神流川(群馬県 R6.4.29)
高水敷でのキャンプ



松原ダム(大分県・筑後川 R6.5.20)
散策



常願寺川(富山県 R6.5.5)
高水敷でのサッカー



真名川ダム(福井県・九頭竜川 R6.5.5)
キャンプ

春の利用者数割合が高い河川・ダム(令和6年度)

※調査対象河川のうち、春の利用者数の中央値を算定。中央値を上回る河川について、四季のうち春の利用者数割合が高いものを上位3位まで選定。(ダム湖も同様に選定)

猛暑が続く夏においても、川ならではの「涼」を直接感じる水遊びや釣り、水上スポーツ等が各地で見られました。

アユ釣りは、多くの川で夏がハイシーズンになります。



昆虫採集 (胆沢ダム R6.7.28)



環境学習イベント (松浦川 R6.7.28)



アユ釣り (庄川 R6.7.28)



アユ釣り (比奈知ダム R6)



バーベキューや水遊び (仁淀川 R6.7.28)



水遊び (肱川 R6.7.28)



日野川(鳥取県 R6.7.28)
アユの友釣り



藤原ダム(群馬県・利根川水系 R6)
サッカー大会



川内川(鹿児島県 R6.7.29)
水上スポーツ (ボート)



池田ダム(徳島県・吉野川水系 R6.7.29)
水上スポーツ (SUP)



番匠川(大分県 R6.7.28)
水遊び



丸山ダム(岐阜県・木曾川 R6)
水遊び

夏の利用者数割合が高い河川・ダム(令和6年度)

※調査対象河川のうち、夏の利用者数の中央値を算定。中央値を上回る河川について、四季のうち夏の利用者数割合が高いものを上位3位まで選定。(ダム湖も同様に選定)

秋の利用シェアは拡大傾向にあります。

穏やかな気候の中、**散策や紅葉狩り、スポーツ大会等**を楽しむ姿が見られました。



コスモス鑑賞 (菊池川 R6.11.3)



散策 (石狩川水系美瑛川 R6.10.13)



散策 (信濃川 R6.11.3)



マラソン大会 (淀川 R6.11.3)



キャンプ (奈良俣ダム R6.11.3)



紅葉鑑賞 (大町ダム R6.11.3)



散策や釣り (淀川 R6.11.3)



高梁川(岡山県 R6.11.3)
高水敷での野球



豊平峡ダム(北海道・石狩川水系 R6.10.14)
紅葉観賞



黒部川(富山県 R6.11.3)
高水敷でのパークゴルフ



川俣ダム(栃木県・利根川水系 R6.10.27)
紅葉観賞



千代川(鳥取県 R6.11.3)
スポーツ大会 (サッカー)



竜門ダム(佐賀県・菊池川水系 R6.11.3)
ボート競技大会

秋の利用者数割合が高い河川・ダム(令和6年度)

※調査対象河川のうち、秋の利用者数の中央値を算定。中央値を上回る河川について、四季のうち秋の利用者数割合が高いものを上位3位まで選定。(ダム湖も同様に選定)

冬期は利用者が減少しますが、散策やスポーツ利用が見られるほか、ワカサギ釣りや雪遊び、凧あげ、どんどや(火祭り行事)等、冬ならではの水辺を楽しむ文化が継承されています。

一年を通じて、水辺が人々に親しまれていることが分かります。



加古川(兵庫県 R7.1.13)
高水敷でのソフトボール



鹿ノ子ダム(北海道・常呂川 R7.1.13)
ワカサギ釣り



菊池川(熊本県 R7.1.13)
どんどや (火祭り行事)



天ヶ瀬ダム(京都府・淀川 R7.1.13)
水上スポーツ (カヌー)



大淀川(宮崎県 R7.1.13)
散策



長井ダム(山形県・最上川 R7.1.13)
スキー

冬の利用者数割合が高い河川・ダム(令和6年度)

※調査対象河川のうち、冬の利用者数の中央値を算定。中央値を上回る河川について、四季のうち冬の利用者数割合が高いものを上位3位まで選定。(ダム湖も同様に選定)